

調査対象

調査日現在、本園の全19世帯(利用者総数19名)を調査対象とした。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱い、当園に複数名園児を預けている場合は、一番低年齢の園児に対しての回答とした。

調査方法

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を園にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

利用者総数	19
利用者家族総数(世帯)	19
共通評価項目による調査対象者数	19
共通評価項目による調査の有効回答者数	14
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	73.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の全員が「大変満足」または「満足」と回答し、大変高い満足度であった。
項目別では、<保育サービス>に関する8設問は全ての設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの発達への有用性」、「食事・おやつの子どもへの配慮」では、全員が「はい」と回答する大変高い満足度が得られている。
<安心・快適性>に関する4設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「園内の清潔な環境」、「職員の接遇や態度」では、85.7%の大変高い満足度が得られている。
<利用者個人の尊重>に関する3設問は全ての設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの気持ちを尊重した対応」では、全員が「はい」と回答する大変高い満足度が得られている。
<不満・要望への対応>の2設問においては、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	14	0	0	0
全員が「はい」と回答しており、大変高い満足度であった。自由意見では「大切に保育してくださってることが伝わってきます」、「子どもが職員のことを好きそうだから」という声が聞かれた。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	13	1	0	0
「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「家ではできない制作や毎日のお散歩など、とっても楽しいようです」、「保育園へ行くことを嫌がることもないため」という声が聞かれた。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	14	0	0	0
全員が「はい」と回答しており、大変高い満足度であった。自由意見では「給食が大好きで、〇〇食べた!」いつも帰りに献立の写真を見ながら教えてください」、「献立も豊富で栄養も十分だと思います」という声が聞かれた。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	2	0	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「お散歩がとても楽しいようです」という声が聞かれた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	2	0	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「本当に助かっています。連絡が遅くなりがちですみません」、「職員たちはすごく親切です」という声が聞かれた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	1	0	0
「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「けがをしたときも対応を細かく教えていただいています」、「園内はドアなどしっかり閉まります」という声が聞かれた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	12	1	0	1
「はい」が85.8%、「どちらともいえない」が7.1%、「無回答・非該当」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「来年はもっと行事が開催できることを祈ります」、「コロナの影響で入園以来、親が参加する行事がなかった」という声が聞かれた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	13	1	0	0
「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「家での様子とすり合わせをしてくださりありがとうございます」、「細かく毎日の子どもの出来事を笑顔で職員が教えてくれます。愛情があるのを実感できます」という声が聞かれた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	12	2	0	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	2	0	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「職員方が皆さんおおらかで朗らかな明るさがある」、「職員は親切」、「今年のトレーナーの色は特に優しい雰囲気だと思います」という声が聞かれた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	11	3	0	0
「はい」が78.6%、「どちらともいえない」が21.4%であり、高い満足度であった。自由意見では「連絡を密にさせていただいています」、「体温は遊ぶだけでも上がるので、38度台は別ですが、37度台の時は違う体温計で再度検温なども試してほしいです」という声が聞かれた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	3	0	3
「はい」が57.2%、「どちらともいえない」が21.4%、「無回答・非該当」が21.4%であった。自由意見は特になかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	14	0	0	0
全員が「はい」と回答しており、大変高い満足度であった。自由意見では「職員の方々が子どもの状況に合った対応をしてくださっており、ありがたいです」、「子どもの気持ちを言葉にしてくれるので、本人も納得しているようです」という声が聞かれた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	13	1	0	0
「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	13	1	0	0
「はい」が92.9%、「どちらともいえない」が7.1%であり、大変高い満足度であった。自由意見では「毎日様子を聞くのが楽しみです」、「SNSの写真を楽しみにしているので、可能な限りアップしてほしいです」という声が聞かれた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	8	3	1	2
「はい」が57.2%、「どちらともいえない」が21.4%、「いいえ」が7.1%、「無回答・非該当」が14.3%であった。自由意見は特になかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政等)にも相談できることを伝えられているか	6	5	1	2
「はい」が42.9%、「どちらともいえない」が35.7%、「いいえ」が7.1%、「無回答・非該当」が14.3%であった。自由意見では「園内に掲示はしてある気がしますが、直接案内された記憶はないです」という声が聞かれた。				

I サービス提供のプロセス項目(サブカテゴリ1～3、5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>法人や園の情報についてはホームページにおいて詳しく提供している</p> <p>法人のホームページには、当園をはじめ法人が運営している保育園の特徴を、写真・図・絵、動画などを用いて分かりやすく伝えている。法人の理念や方針をはじめ、手作り給食、各園行事・教室など幅広い内容になっており、保育園を選択する際の適切な情報提供になっていることがうかがえる。また、各園のリンク先には新着情報が示されるが、表示についてはさらなる工夫も望まれる。</p> <p>園のパンフレットを品川区役所に設置したりSNSで園の情報を発信している</p> <p>全体的な計画には、「保護者や地域社会に対して、園の理念・方針や保育活動の目的・計画、児童の様子や活動内容等の情報を地域や保護者に対して開示・共有していくことで信頼関係の構築を図り、円滑に施設の利用ができるようにする」ことを明示して、園の方向性を示唆している。また、保育園のパンフレットを品川区役所に設置したり、区の保育施設指導検査では文書指摘の無いことを公表したりして、事業の透明性を担保している。園のSNSでは給食や、園でのあそび、散歩などを掲載して情報発信している。</p> <p>年間通して園見学を実施し、ホームページからも申し込めるようにしている</p> <p>入園を希望する保護者に対しては、年間を通して園見学を実施している。また、法人のホームページには「入園を希望する保護者の方向けの問合せフォーム」を設けており、資料送付や見学の希望日、時間帯などを入力して申し込めるようにしている。見学日については追って日時の調整を行い、メールもしくは電話で知らせる仕組みになっている。見学時には園のパンフレットを用いて概要を説明し、保護者の質問には個別に丁寧に対応している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園説明会と、個人面談で園生活について説明し保護者の同意を受けている 入園が決定した際には入園説明会を行っており、入園のしおりに基づいて園生活での重要な事項について説明を行い、重要事項説明同意書を交わしている。入園のしおりに、法人および園の概要、子どもの姿と目標、元気な毎日を送るために基本的な生活習慣、虐待防止のための措置に関する事項、手作り給食とおやつ、持ち物など園生活で必要な事柄が網羅されている。また個人面談も行い、子どもの発達の様子や家庭での姿を聴き取り、園生活の流れやルールも伝えている。</p> <p>成長や生活の様子、要望を把握し面談シートに記録し、職員間で情報共有している 個人面談で聴き取った、子どもの成長や家庭での生活の様子、保護者からの要望を面談シートに記録し、職員間で情報共有している。日々の様子は連絡帳や口頭で保護者と情報を共有するように努めている。子どもの心身の状態については、職員間では口頭での伝言や日誌への記載、リーダー・職員会議での随時報告などにより確認を行っており、子どもの情報を把握(共有)した上で保育計画に反映させ、保育に取り組んでいる。</p> <p>慣らし保育期間は2週間を目安に子どもの様子や保護者の状況に合わせて進めている 保護者の仕事復帰に合わせた慣らし保育期間を設けながら、子どもが園生活に無理なく順応できるよう取り組んでいる。2週間を目安に子どもの様子や保護者の状況に合わせて慣らし保育を進めることにしている。3歳児以降の小規模保育事業の連携施設については、園や区のホームページに情報を掲載して、スムーズな転園につながるよう区と調整している。保護者アンケートでは「1保育園につき1人の進級となってしまっているので、お友だちと一緒に進級できたら安心できる」などの声も聞かれており、法人として区との調整を行っている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
年間指導計画から月案策定時には個別の指導計画を立てている 入園時、保護者に児童調査書や健康記録を記入してもらい、入園後は、児童票に発達記録を記載して成長を確認できるようにしている。また、個々の発達状況は一定期間毎に児童票に記入しており、それぞれの子どもの成長を期間毎に把握できるようにしている。身体測定や健診の結果は健康記録シートに記録し、保護者には健康カードに記入したもので提示している。年間指導計画に基づき月案を作成時には、個々の成長段階や前月の反省を踏まえて、個別の指導計画も立てている。			
全体的な計画と、総括を踏まえて年間指導計画を策定している 保育所保育指針を基に全体的な計画と、総括を踏まえて年間指導計画を策定している。さらに子どもの心身の成長を踏まえ、前月や前週の反省・評価を考慮し月案、週案を立てている。0歳児と1歳児については、月齢の他に1年を4期に分けてねらい、評価・反省を記入する様式になっている。計画は、前月の反省も考慮した上で作成するようにしている。2歳児までの全児童は、法人全体で統一されている個別月案を作成することになっている。見守りが必要な子どもに関しては、別紙を用いて細かな指導計画を立てるようにしている。			
児童票の目的と使用範囲に加え、管理方法を入園のしおりでも明示している 入園のしおりには、児童票の目的と使用範囲に加え、事務室の鍵のかかる場所に保管するように管理体制についても明記している。児童票を利用する際は、声をかけて事務室内での利用としている。子どもに関する情報はクラス報告や、クラスリーダー会、職員会議を通して共有を図っている。また、日々の出来事に関しては、登園表に入力または、職員回覧に記入し、申し送りをしている。アレルギー児への対応は、個別の除去献立に基づくアレルギー会議を実施し、情報の共有をしている。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報適切に管理している旨を保護者に説明し、承諾書に署名を受けている 入園時に、社会福祉法人あざみ会のプライバシーポリシー(個人情報保護について)に則り個人情報の扱いについて説明し、承諾書に署名を受けている。保育中のケガや、発熱、食欲、下痢、発疹などの症状があった場合には、保護者に連絡し了承を受けた上で、医療機関の受診をすることになっている。子どもの羞恥心への配慮についてはオムツ替えの場所に配慮し、失敗により着替えが必要な際には、本人が恥ずかしい思いをしないように周囲の子どもの視線を遮るなどの配慮に努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直し取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>保育、保健、保育以外、事務についてのマニュアルが整備され研修を行っている 保育(児童の登降園時の対応、子どもの病時保育の基準、保育事務マニュアル、保育事務書き方見本など)、保健、保育以外、事務(通勤時の身だしなみ、社会福祉法人あざみ会の職員としての心得、勤務中の服装など)のマニュアルが整備されている。入職時にはマニュアルについて必要な研修を行っている。マニュアルは職員に配布し、いつでも職員が閲覧できるように事務室に配置している。</p> <p>サービス提供について職員会議や、園内研修で全職員で再確認や見直しなどを行っている 「提供している保育や各種業務がルール通りに行われているか」については、職員会議や園内研修で全職員で再確認や見直しなどを行っている。日頃使用するマニュアルは職員に配布するとともに事務室に常置し、いつでも確認できるようにしている。水遊びや感染症など、季節的な事柄についてはシーズン前にマニュアルに基づいた確認を行っている。職員自己評価では他のカテゴリに比べて評価が低くなっていることを踏まえ、マニュアルを体系的に分かりやすく示すことが期待される。</p> <p>年度末および、マニュアルに不都合が生じた場合は、都度見直しが必要か検討している 年度末には、マニュアルを見直しすることになっており、法人共通のマニュアルについては園長会で発議があったものについて見直しを行うことになっている。改訂があった場合はその都度、園に連絡が入り、職員に周知を図ることになっている。保護者に関わる項目についての改訂は、お知らせや玄関への掲示、一斉メール、保護者会などの機会によって確実に伝えるようにしている。</p>		

II サービスの実施項目(サブカテゴリ-4)

サブカテゴリ-4		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	38 / 38
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(○○○○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>入園前の面談で子どもの状況の把握に努めている 面談時には、事前に提出を依頼した食事の調査票、健康調査票、児童調査票を記入して持参してもらい、これをもとに面談でヒアリングをして追記し、子ども及び保護者の状況の把握をしている。これらの情報は個別にファイリングをして、事務所の鍵のかかるところで管理している。小規模な園であることから、職員会議などで情報を共有して、全職員が、子ども全員について理解できるよう努めている。</p> <p>子どもの状況に応じて玩具を入れ替えるなど、環境設定をしている 子どもの状況を見ながら、玩具を入れ替えるなど環境を整えるとともに、職員が一人ひとりの発達状況を見極め、個々に合わせた対応ができるように心がけている。年間の指導計画があり、月齢、年齢に合わせて計画を作成しているが、その年の子どもの状況が全て計画に当てはまるということはないので、子ども一人ひとりに合わせた個別計画を作成して対応している。</p> <p>自然に異年齢交流が行われている 小規模な園でもあり、異年齢の子ど達が一緒に過ごす機会も多い。特に今年度から始めたリミックは10か月程の子どもも1、2歳児と一緒に参加している。ひな祭りなど行事も合同で楽しめるようにしている。また、18時以降は、全員が1つのクラスで遊んでいる。特別な配慮が必要な子どもについては、職員が見守りながら、他の子どもたちと一緒に過ごせるよう援助している。区の巡回相談にも申し込んでおり、今後関係機関とも連携して、相談しながら対応していくことにしている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの様子は必ず視診でも確認している</p> <p>登園時には、保護者から子どもの様子を聞くとともに、職員も必ず視診を行っている。受け入れの状況についてはパソコン内に記録しており、後から出勤した職員が必ず目を通してからクラスに入ることになっている。小人数の園であることから、職員全員が担任以外の子どもに関する情報も把握するように努めている。また、必要に応じて口頭で伝えることもある。</p> <p>離乳食の進め方などは個別に対応している</p> <p>離乳食は月齢に応じておおよその目安はあるが、歯の生え方など個人差があり、個々の状況を見ながら、保護者と情報を共有して進めるようにしている。離乳食を進めるにあたって、毎週、栄養士も出席して離乳食打ち合わせを行っている。排泄については、2歳児までの園であり、保護者がオムツ外しを希望したとしても、園での子どもの様子を伝えながら、無理のないように進めている。また、子どもが疲れているようであれば、午睡の時間以外でも短時間寝かせるなど、臨機応変に対応している。</p> <p>降園時には、保護者にエピソードを伝えるようにしている</p> <p>その日の子どもの様子は連絡帳に記載して保護者と共有しており、記載した内容を口頭でも伝えている。登降園表などを活用しながら、降園時にどの職員が対応しても、何かひとつエピソードを保護者に伝えることができるように心がけており、特に伝えてほしいことは口頭でも申し送りをしている。また、行事などは壁新聞にして、保護者に見てもらえるようにしている。</p>			

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>日々の活動の中で子ども同士が関われるよう援助している</p> <p>日々の活動の中で、おままごとなど、子ども同士で関われるような遊びを援助している。遊びたくないという場合は無理強いせずに、一緒に遊んでいるところを見るなど、子どもが自ら興味を持てるようにしている。また、子ども同士で遊べるように、職員はヒントを出して、遊びを発展させることもある。現在は、子どもが自由に玩具を出して遊ぶことが難しく、職員が子どもの様子を見ながら玩具を出している。園では、コーナーを作りたいと考えており、難しい環境の中で、どのように実現するか期待される。</p> <p>絵本や見立て遊び、生活の中で言葉が育めるようにしている</p> <p>絵本の読み聞かせや見立て遊びの中などの他、普段の生活の中でも言葉を育めるようにしている。例えば、衣服の着脱がうまくできない時には、「こういう時には手伝ってと言うのよ」、玩具の貸し借りの時などに「ありがとって言えるといいね」など、職員が子どもを見守りながら適宜声をかけるようにしている。言葉を育むと同時に、人との関わりも自然に身につくと思われる。</p> <p>散歩を日課としており、天気がよければ戸外に出るようにしている</p> <p>現在、7か所ほどの公園を目的に合わせて利用しているが、次年度はさらに行き先を増やす予定である。園のSNSでも、楽しそうな散歩や公園遊びの様子を確認することができる。また、園では今年度よりリトミックを取り入れており、0歳児から参加している。リトミックは月に1回行っているが、雨の日などにはクラス単位で行うこともある。また、野菜スタンプで遊ぶなど、子どもがさまざまな表現をできるように援助に努めている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>ハロウィンやお店屋さんごっこなど、子どもが主体的に取り組めるようにしている</p> <p>2歳児クラスの子どもたちは、お店屋さんごっこで、焼きそば、たこ焼き、アイスクリーム、綿あめなどを作って、お店屋さんになり、下のクラスの子どもたちがお客さんになって楽しんだ。特に2歳児はお店に並べるものを作るところから、お店の人になって、お客さんの下のクラスの子どもたちに対応するなど、お店屋さんごっこの準備からの過程を経験することができた。ハロウィンでも、2歳児が玩具のお菓子を手作りし、園児全員が仮装もして楽しむなど、子どもが主体的に関われる行事を工夫している。</p> <p>保護者には、年間行事予定を配布する他、その都度知らせて理解を得ている</p> <p>昨年度、今年度とコロナ禍により、夏祭りなど保護者が参加する行事が中止を余儀なくされている。しかし、子どもたちだけで夏祭りやハロウィン、お店屋さんごっこなどを楽しめるよう工夫している。また、行事の開催にあたっては、年間行事予定であらかじめ保護者に伝えるとともに、その都度事前に伝えるようにして理解を得ている。行事開催後は壁新聞で園内に掲示して、保護者に見てもらえるようにし、併せて園のSNSでも、タイムリーに伝えている。保護者アンケートには、SNSの写真を楽しみにしているというコメントもある。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>朝夕は合同保育で異年齢の子どもたちで過ごしている</p> <p>クラスでは、子どもの月齢や発達状況に応じて適切な玩具を提供し、子どもたちが楽しく過ごせるように援助している。0歳児の子どもいることから、月齢や人数を見て、子どもたちに無理がないように調整し見守りをして、安全に楽しく過ごせるような援助に努めている。異年齢の子どもたちが一緒に過ごすことで、クラスにいる時とはまた違った環境で、子ども同士の新たな関係性が生まれていると思われる。</p> <p>延長保育では、子どもがくつろいで楽しく過ごせるよう配慮している</p> <p>玩具は日中使っていたものとは別に、朝だけ出す玩具や夕方だけ出す玩具を用意しており、子どもが新鮮な気持ちで遊べるように工夫している。園では、子どもの月齢や人数を考慮して空間などを設定するなど、子どもたちが無理せずに寛いで過ごせるような援助を心がけている。子ども達は思い思いに好きな遊びをしており、職員は見守りながら、安全に過ごせるように配慮している。</p>		
6 評価項目6 子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>月齢に応じて、安全に楽しく食事ができるよう援助している</p> <p>子どもの月齢など状況に合わせて、テーブルや椅子、食具などは適切なものを準備している。また、いつも決まった場所で、出来る限り同じ職員が援助できるようにして、子どもが安心して落ち着いて食事が出来るよう努めている。食事は法人内の別の保育園で調理しているが、毎日栄養士が巡回している。こどもの日、七夕、クリスマス、節分、ひな祭りなどの際は行事食を提供して、食事においても季節の行事に触れることができるようにしている。</p> <p>アレルギー児には慎重に対応している</p> <p>園では日頃よりノンエッグマヨネーズを使うなどの配慮をしているが、アレルギー児がいる場合は、除去食や代替食で対応している。個別の献立を作成し、栄養士、園長、主任、担任などで月1回アレルギー会議を開いて確認し、保護者にも確認してもらっている。アレルギー食は専用のトレイで提供し、名前と除去食材を明記している。配膳時には、栄養士と職員が一緒に確認している。また、離乳食もトレイに載せてラップをかけ、ラップに「〇〇ちゃんの完了食」と明記して間違いがないよう配慮している。</p> <p>月齢、年齢に応じた食育計画を作成している</p> <p>年齢に応じて食育計画を作成しており、調理される前の食材を見たり、手で触れたり、皮むきなどから、スプーンやフォークの持ち方、食事のマナーまで多岐にわたっている。今年度はコロナ禍で、思うように進まなかった部分もあるが、法人の畑で育てているピーマンやトマトを見に行くなど、できる範囲で実施しており、今後はプランターで野菜を育てることも検討中である。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p>コロナ禍であり、手洗い指導を徹底している</p> <p>これまで、子どもの成長や発達に合わせて手洗い指導などを実施してきたが、この2年ほどはコロナ禍により、より一層の配慮をしている。担任が指導するとともに、手洗い場の前にはイラストも貼って、目で見て分かるようにしている。また、ケガなどの防止については、紙芝居や絵本で、どうい状況でケガをしようか子どもに分かるように伝えている。散歩に出た時には、交通ルールを教えたり公園の遊具の使い方を指導するなどしている。</p> <p>緊急時対応はマニュアル化し、実際にやってみて確認している</p> <p>熱性けいれん時の対応、エビペンの使用、感染症対策ガイドライン、食物アレルギー緊急対応マニュアル、食中毒発生時の対応フローチャート他、各種マニュアルを整備している。また、実際にやってみることで対応の確認をしている。救急車要請は、電話の横に住所など聞かれたことすぐ答えられるよう、救急車の呼び方を貼っている。乳幼児突然死症候群予防として、0歳児は5分毎、1、2歳児は10分毎に睡眠の状況などをチェックし、0歳児にはセンサーも導入している。保護者には、毎月保健だよりで注意事項を伝えるようにして連携を図っている。</p> <p>慣らし保育により、ストレス軽減に努めている</p> <p>入園当初は、子どもにも保護者にも不安やストレスがあることを鑑み、慣らし保育を実施している。0歳児は一日1時間から始め、1時間半、お昼寝までと徐々に時間を延ばすようにして、無理のないように進めている。1歳児からは一日2時間からスタートしている。おおよそ、1週間から10日ほどかけているが、子どもの様子によっては、さらに延ばしたり、また、保護者の状況に配慮し、短縮する場合もある。子どもが慣れるまでは、なるべく同じ職員が対応し、抱っこなどで子どもが安心できるように援助している。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の意向や要望を把握し、家庭との連携を図ることに力を入れている</p> <p>登降園時の保護者との会話をはじめ、面談などを通じて意向や要望を把握し、家庭との連携を図ることに力を入れている。特に0歳児の年間指導計画の養護の欄には、「家庭との連絡を密にとり子どもの健康状態・子どもの気持ちを保護者と共有することで、保護者が安心して子育てができるよう支援する」ことを明示して、実践に取り組んでいる。延長保育は事前申請が基本だが、当日の急な延長についても受け入れている。保護者アンケートでは「全ての職員が自分の子のことをよくわかってくれていて嬉しい」と評価されている。</p> <p>保護者と職員がコミュニケーションを取り、信頼関係を構築することに取り組んでいる</p> <p>年2回の保護者会や、保育参観、保護者参加の親子行事を年間行事として行い、保護者同士が交流できる機会を提供していたが、現在はコロナ禍で制限的になっている。ただし、少人数保育によりすべての職員が子ども一人ひとりを把握することができるため、それぞれの保護者と職員が、十分にコミュニケーションをとれる関係を構築している。子どもたちの園生活の様子を職員が伝えることで、保護者と職員が信頼関係を築くことが出来る環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員間の情報共有は保護者からも評価の声が聞かれている</p> <p>子どもに関する情報は、リーダー会や職員会議で共有し、職員全員が全園児について把握できるようにしている。朝夕の送迎時においても、誰が対応しても適切な言葉がけが出来ることで、保護者の安心感や信頼につながっていると思われる。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育施設の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の公園に慣れ親しみ、子どもの経験の幅を広げている</p> <p>地域の自然(木の実や木の葉など)に触れる機会を通じて地域資源の活用に取り組んでいる。入園のしおりのお散歩マップには北浜公園、洲崎公園、東品川海上公園、東品川公園、商品川二丁目児童遊園なども掲示され、子どもたちが地域の公園にも慣れ親しむ機会を充実させている。また、事業計画に、「地域の行事にも職員が参加し、積極的に地域との関係作りに育む」ことを明示し、地域の消防団に加入するなどによって、地域との連携を通して子どもの生活の幅を広げることができるよう取り組んでいる。</p> <p>地域との交流・支援を積極的に行うことを目指している</p> <p>事業計画では「地域向けの行事や地域に開放できる場所は開放し、地域の子育て支援を積極的に行う」ことを掲げ、保育園の行事に地域の人の参加を呼びかけたり、地域の行事に参加したりするなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会を創出している。但し、昨年度よりコロナ禍のために制限的に行われるか中止となっており、新しい生活様式の中で子どもが職員以外の人たちとどのような交流を持って行くのかは課題となっている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当	
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当	
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>意見・要望を解決するための仕組みを明記し利用者の意向を解決する体制を整えている</p> <p>入園時に配布している「園のしおり」には意見・要望を解決するための仕組みについて目的、解決の体制、第三者委員を明記しており、重要事項説明時に説明し、周知している。また、園の玄関掲示板に苦情解決制度について掲示し、意見箱も設置している。保護者アンケートでは不満要望への対応についてが57.2%、外部の相談窓口に関する認識度は42.9%にとどまっていた。自由意見では「園内に掲示はしてある気がしますが、直接案内された記憶はないです」という声が聞かれた。</p> <p>虐待については入職時、園内定期研修、事例を共有し、各関係機関との連携を図っている</p> <p>虐待については入職時研修や、定期的な園内研修、時事ニュースで取り上げられた時など、現状の振り返りや、認識の確認などを行っている。入園のしおりには、利用児童の人権の擁護・虐待の防止のための措置に関する事項として、「人権の擁護、虐待の防止等に関する必要な体制の整備」「職員による利用児童に対する虐待等の行為の禁止」「虐待の防止、人権に関する啓発のための職員に対する研修の実施」「その他虐待防止のために必要な措置」を明記している。また、法人内のマニュアルに基づいて、各機関との連携を図っている。</p> <p>各リスクの対策が明記され、対応行動、原因追及や、再発防止策を講じるよう努めている</p> <p>一部コロナ禍により中止したのものもあるが、事業計画には、保護者への一斉メール、避難訓練の毎月の実施、消防署員立ち会い避難訓練、警察署員による不審者訓練、災害時用非常食備蓄品の点検・見直し(入れ替え)などが計画されている。各リスクに対するマニュアルに対策を明記してあり、それに基づき行動し、その都度原因追及や、再発防止策を講じるよう努めている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル①	より細やかな保育を心がけ、子ども一人ひとりの個性を引き延ばすことに力を入れている	
内容①	全体的な計画には、「子どもたち一人ひとりの人権の尊重をし、最善の利益の追求・保証をしていく。また、保護者も一人ひとりの環境や成長・発達を把握し、個別指導計画を立て、より細やかな保育を心がけるようにしている。入園時の面談の際に、家庭の様子や保護者の価値観、生活習慣を把握して、可能な範囲で配慮に努めて保育を行えるよう取り組んでいる。保育の中では子ども一人ひとりの個性を引き延ばすことに力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもが自分を表現できる機会の一つとして、今年度よりリズムックを取り入れた	
内容②	絵を描いたり、体を動かすなど、これまでも子どもが自分を自由に表現できるように援助してきた。今年度からは、新たに、月1回リズムックを取り入れており、0歳児から参加している。リズムックは月1回全体で行うほかに、雨の日などはクラス単位で行うこともある。園では、今後リズムックの発表会なども考えたいとしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	小規模保育園の特徴を活かした各種の取り組みが定着している
	内容	小規模保育園であることから、子ども一人ひとりの発達発育の様子を職員全員が把握できている。また、職員一人ひとりがゆったり関わり、丁寧な支援が出来ていることがうかがえる。保護者一人ひとりと、十分に会話する時間が持てるため、どの保護者とも職員が信頼関係を築くことが出来ている。今回行った保護者アンケートにおいても「全ての職員が自分の子のことをよくわかってくれていて嬉しい。少人数の割に職員の人数が多く手厚いと思う」「少人数なので目が行き届く」などの評価の声が数多く聞かれている。
2	タイトル	子どもの姿を園と保護者が把握し、共通理解を持てるようにしている
	内容	事業計画では「家庭や地域社会との連携を図り、保護者の協力のもと、家庭教育の補完を行う」「園外保育を多く取り入れ、保護者の協力のもと園児にその時期ならではの体験を重ねる」ことを目指している。日頃から朝夕に保護者と、連絡帳や口頭で子どもの姿を伝え合い、子どもの姿を園と保護者が把握し、共通理解を持てるようにしている。保護者会にて、各月齢に合った育ちや、これからの成長を現在の子どもたちの姿になぞらえながら説明していく機会を設け、保護者と共通認識を持てるよう取り組んでいる。
3	タイトル	
	内容	
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	3歳児以降の進級先が分かれてしまうことを課題とし、品川区と調整を進めている
	内容	現在3歳児以降の小規模保育事業の連携施設については、園や区のホームページにも掲載されており、スムーズな転園につなげている。ただし、保護者アンケートの自由意見欄には「ほとんどの場合1保育園につき1人の進級となってしまう、せめて2,3人のお友だちとまとまって進級できたら安心できる」との声も聞かれている。法人としても課題としており、系列園に全員、もしくは希望者が継続して進級できるよう検討しており、品川区との調整を進めている。
2	タイトル	コーナーづくりなど、環境設定のさらなる工夫が期待される
	内容	日々の活動の中で、おままごとなど、子ども同士で関わられるような遊びを援助している。遊びたくないという場合は無理強いせず、一緒に遊んでいるところを見るなど、子どもが自ら興味を持てるように援助している。また、子ども同士で遊べるように、職員はヒントを出して、遊びを発展させることもある。しかしながら、現在は環境設定が難しく、職員が子どもの様子を見ながら玩具を出している状況である。園では、コーナーを作りたいと考えており、難しい環境の中で、どのように実現するか期待される。
3	タイトル	
	内容	

